

## 05 作品概要 ~ 番外編 ~

### 映像作品：陸前高田で生きるということ ~ 私が陸前高田で生きた記録 ~

本映像は、8月に本格的に始動し、10月末まで行った陸前高田でのフィールドワーク（滞在）の記録を、映像という手法を用いてまとめたものである。

#### 作品の概要

本映像は、鑑賞者が実際にその場で陸前高田を感じられるよう、映像に記録された「音」や「会話の様子（笑い声）」などを出来るだけ残している。8月・9月の滞在記録では、写真の記録が多く、私自身が「第三者的目線」で現地に入っていることが分かる。10月の映像に変化すると、映像とともに笑い声や相手の表情などを捉えることが出来るようになっており、「当事者性」がより濃く伝わってくるだろう。私自身の陸前高田に対する前向きなイメージへの変化や、滞在を通して、陸前高田の人々との信頼関係の構築による、会話・表情の変化などにも注目して映像を鑑賞してもらいたい。

#### 展示空間のたのしみ方

本展示空間では最初に映像を見た後、次に、映像の音を聴きながら、メイン作品を鑑賞することをおすすめする。聴覚と視覚を同時に使いながら、まるであなたが本当に『陸前高田市』にいるかのような雰囲気を楽しんで欲しい

## 05 作品概要 ~ 作品の詳細 ~

# メイン作品：Enter the manuscript

### 材料 (作品サイズ：H2500mm×W3600×D1000)

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| ①木材                | ⑤フィルム写真 (A2,A3 サイズ)   |
| ②ビス                | ⑥スタイロフォーム、アクリル絵具 (ぼ！) |
| ③ワイヤーネット×14(DAISO) | ⑦新聞紙 (2011年3月のもの)     |
| ④結束バンド・クリップ・テグス    | ⑧シーグラス (陸前高田で拾ってきたもの) |

### 作品について

- ① 全体の土台となる部分は木材を使用。作品の天井となる部分は、写真を容易に取り外して写真の構成をじっくり考えることができるようにワイヤーネットを使用し、クリップで簡単に取り外しが出来るように工夫した。
- ② 作品の作文がはられている壁面から、前方にいくにつれて時間軸が新しくなっていく。それを表すために、柱には [2011,2022] の日付を記した。
- ③ 吊るされているフィルム写真は、撮影した日にちが同じレイヤーに来るように吊るした。(壁面から前にいくにつれて、写真の日付が新しくなる。)
- ④ 吊るしてある写真の左下には、日付と何の状況を撮影したものなのかが分かるような一言を添えた。
- ⑤ 震災当時の新聞は、当時リアルに起こっていたパニック的要素を加えることにより、滞在記録の前向きなイメージであるフィルム写真が、より際立って見えるような意図で吊るした。